

阿賀 文郁^{ふみか}さん (岡山県高梁市出身)
2017 年度 1 次隊 青年海外協力隊
派遣国：サモア 職種：体育
2018 年 11 月 25 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

多い肥満 体育指導に力

私は世界で一番早い日の出と夕日が見られる国、サモアにいる。大きな島二つで構成される 2830 平方キロ(広島県の 3 分の 1)の島国だ。平均気温 26 度。見渡せばココナツ、パパイア、マンゴーの木々。そしてきれいな海が広がる。オープンファレという屋根と柱だけで壁のない家で、爽やかな風を感じながらの昼寝は最高だ。人が少ないバカンス感満載の隠れリゾート地、それがサモアだ。



手作りの土俵で相撲を取るカレッジの生徒たち

人々は基本的に陽気でフレンドリー。出退勤時間、週休日を自分で決めちゃうスーパーフレキシブル勤務。ペンでもお金でも貸したものは返ってこない究極のシェア文化だ。貯金の概念がなく、なぜか給料日の翌日には金欠になる。イエスもノーも、声を出さず眉毛を上に動かすだけの返事。週に 1, 2 回学校で聞かされる「本日授業なし」のお知らせ。最初は驚かされっ放しであったが、1 年 3 カ月たった今では大体のことが普通になった。

私は体育隊員としてカレッジ(中高等学校)で体育の授業改善に取り組みながら、生徒と異文化交流をしている。サモアでは人口の約 80%が肥満で、改善策の一つとして、2013 年から授業に保健体育が導入された。カレッジでは選択教科の一つだが、カリキュラムでは体育が年 5~10 時間程度、それ以外の約 130 時間は保健に充てられる。どうやらサモアは理論派のようだ。私は自分が外国人であるのをいいことに、担当クラスに体育と保健を半分ずつ実施している。

サモアの人々は文化や伝統をととても大切にしている。そして自分たちに誇りを持っている。私がサモアを変えることは当然できないし、変わる必要がないと思っている。サモアと日本、場所は違っても同じ世界の同じ人間として、お互い幸せに生きていきたい。